

2022年度入試

# 入学試験問題集

【東京成徳大学 応用心理学部 健康・スポーツ心理学科】



東京成徳大学 東京成徳短期大学

## 目 次

総合型選抜 9月入試 小論文	1
総合型選抜 10月入試 小論文	2
総合型選抜 12月入試 小論文	3
学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文	4
スポーツ特待生入試 小論文	5
編入学試験 小論文	6
一般選抜 D日程入試 総合型問題（学部学科別）	7
出題意図・解答例	8

「一般選抜 A日程・B日程・C日程」の問題は、  
「2022年度入試問題集 一般選抜 A日程・  
B日程・C日程（大学・短期大学共通）」に  
掲載しています。

# ●総合型選抜 9月入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

わが国において人々のウェルネスを支える主要な資源のひとつに、「温泉」や「銭湯」などの公共入浴施設がある。国内に数多くある入浴施設のうち、半数以上の施設において、入れ墨（タトゥー）がある人の入館や利用を断っていることが、観光庁（2015）の調査で明らかになっている。この理由のひとつには、入れ墨には、「やくざ」などの反社会的組織のイメージが色濃く、入れ墨がない他の利用客が不安に感じたり、怖がったりして抵抗を感じてしまう可能性があることが指摘されている（山本，2016）。

しかし、入れ墨が入っている人の利用を受け入れている銭湯 15 施設の管理者から意見を聞いた研究では、「入れ墨がある人はむしろ入浴施設では礼儀正しく、迷惑な行為はほとんど見られない」という意見が複数聞かれているという（佐藤，2021）。むしろ、入浴施設で問題になるのは、入れ墨の有無とは関係なく、マナーやルールに反した利用をする人への対応が問題になっているという。

日本では、入れ墨を入れている人はマイノリティ（少数派）であり、その割合は 2% 前後に過ぎないといわれている。しかし、諸外国では、わが国よりもはるかに多くの人が入れ墨を入れていることも多い。国によっては、30%～40%ほどの人が入れ墨を入れている例もある。

このような中で、これまでどおり、入れ墨がある人の入浴施設の利用を断り続ける入浴施設が多数を占める状況を維持すべきか、または、その対応を改めていくべきかという議論が起り始めている。国（観光庁）は、海外からの観光客のためにも、入れ墨がある外国人が入浴施設を利用できるようにするための留意事項をホームページで公開する取り組みを行っているが、判断は各施設に委ねられており、法律や取り決めはない状況が続いている。現在も、さまざまな視点からの賛否両論があり、今後の方針についてはっきりとした結論は出していない。

引用：観光庁（2015）. 入れ墨（入墨）がある方に対する入浴可否のアンケート結果について <[http://www.mlit.go.jp/kankocho/topics05\\_000160.html](http://www.mlit.go.jp/kankocho/topics05_000160.html)>  
山本芳美（2016）. イレズミと日本人 平凡社新書  
佐藤汰門（2021）. 公衆浴場の現状から見る温浴施設における入れ墨をしている人の利用を巡る問題 法政地理, 53, 49-60.

設問 1 公共入浴施設で入れ墨がある人の利用を断ることに對して、①断ることに賛同する、②断ることに賛同しない、③どちらともいえないの 3 つの立場から、あなたの考え方に最も近い立場をひとつ選び、その理由、他の立場に対する意見や反論などを、具体的かつ論理的に述べてください（400 字以内）。

設問 2 あなたは、公共入浴施設における入れ墨の取り扱いに関する問題を少しでも解決していくために、今後、どのような取り組みや政策が必要であると考えますか。あなたの考えを具体的に提案してください（400 字以内）。

# 総合型選抜 10月入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

心理学は行動の科学である。ポジティブ心理学は人間のもつ強みや潜在能力を引き出し、個人や社会を繁栄させる要因を見出し、促進することによって人間が最大限に機能できるようになるための科学的研究である（Seligman & Csikszentmihalyi, 2000）。すなわち、ポジティブ心理学を活用して、私たちはもっと幸せに、もっと健康になることができ、スポーツも勉強も仕事もあらゆるパフォーマンス（成績、業績、結果など）を高めることもできる。

科学的にもっと幸せになる方法がある。持続的幸福モデルによると、幸せの決定要因とその割合は、遺伝で決定づけられた設定値（50%）、富、美しさ、学歴、職業などの状況や環境（10%）、自分で変えることのできる意図的な行動（40%）である（Lyubomirsky, Sheldon, & Schkade, 2005）。一般的に、もっとお金があったら、頭がよかったら、美しかったら、もっと幸せだったのと思われがちである。しかし、そうではなく、より高水準の富、名声、美貌を手に入れても幸せの10%を占めるにすぎず、快樂順応といって慣れてしまい、さらなる高水準を求めて苦しむことさえある。意図的な行動次第で私たちは自分の力でもっと幸せになることができる。幸福度を高めるために、40%は私たち自身がコントロールできるのである。

意図的な行動とは従来の行動の変容や実践であり、ある程度の努力が必要となる。もっと幸せになるために科学的根拠のある12の行動習慣は以下の通りである（Lyubomirsky, 2007）：①感謝の気持ちを表す、②楽観的になる、③他者と比較しない、④他者に親切にする、⑤人間関係を育てる、⑥ストレスや悩みへの対抗策を練る、⑦他者を許す、⑧熱中できる活動を増やす、⑨人生の喜びを深く味わう、⑩目標達成に全力を尽くす、⑪精神的、内面的なものを大切にする、⑫運動など身体を大切にする。これら12の行動習慣について、一度に全てを改善する必要はない。目標を決めて3つほど選ぶことから始める。その際、自分の問題点に合わせることで、自分の長所や強みに合わせることで、自分の生活様式に合わせることで重要である。幸福の追求は自分自身のためだけでなく、パートナーや家族をはじめ、コミュニティや社会全体のためになることも明らかとなっている。

### 引用文献

Lyubomirsky, S., Sheldon, K. M., & Schkade, D. (2005). Pursuing happiness: The architecture of sustainable change. *Review of General Psychology*, 9, 111-131.

Lyubomirsky, S. (2007). *The how of happiness: A scientific approach to getting the life you want*. New York: Penguin Press  
(リュボミアスキー, S. (2012). 渡辺 誠 (監修) 幸せがずっと続く 12の行動習慣 日本実業出版社)

Seligman, M. E. P., & Csikszentmihalyi, M. (2000). Positive psychology: An introduction. *American Psychologist*, 55, 5-14.

### 設問 1

持続的幸福モデルによると、幸せの50%は遺伝により決定されている。経済格差、教育格差、健康格差など、格差の是正がうたわれるものの現実問題として格差は存在する。幸せの決定要因と格差について、自分の考えを具体的かつ論理的に説明せよ（400字以内）。

### 設問 2

幸せの決定要因の40%を占める意図的な行動次第で私たちはもっと幸せになることができる。科学的根拠のある12の行動習慣の中から1つか2つの行動習慣を選んだうえで、現状を自己分析し、目標を具体的に設定し、もっと幸せになる方法と幸せになれると思われる理由を具体的かつ論理的に述べよ（500字以内）。

# ●総合型選抜 12月入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章は、ラグビー元日本代表、そして現イングランド代表ヘッドコーチのエディー・ジョーンズ氏の著書「プレッシャーの力」の一節です。この文章を読んで次の設問に回答して下さい。

### 設問

あなたが現在抱いている「成功願望」について、次の条件を踏まえて800字以内で述べて下さい。なお、ここでの成功願望とは、将来の夢や理想など、長期に渡って達成したい目標のことをいいます。

条件①：あなたの「成功願望」は？

条件②：「成功願望」を達成するために、あなたがやらなければならないこと

条件③：自分の性格における長所から「成功願望」を達成できるという確信度

条件④：自分の性格における短所から「成功願望」の達成を阻害する要因の改善方法

条件⑤：「成功願望」への挑戦が、あなた自身に与える影響

※条件の番号は論述展開の順番を表しているわけではありません。書きやすい順番で構いません。

選手として、私は体が小さいというハンデ、プレッシャーを背負っていた。特にラグビーでは、フッカーというスクラムの最前列で並ぶ3人の中心のポジションをつとめ、パワーが必要だった。実際にスクラムを押しするのは両脇のプロップと呼ばれるポジションの選手たちで自分はいくまで舵取り役だが、相手フォワードの大男と直接体をぶつける。

身体が大きいに越したことはない。体の小さい私は激しい衝撃を受けることになる。

そしてフォワードの選手たちはスクラムだけが仕事ではない。スクラムからボールが出た後も、フィールドプレーとなり、密集の最前線で体を張る必要がある。

せめて足が速ければよかったのだが、そういうわけでもない。はっきり言って私は、身体的にラグビーにはあまり向いていなかった。

成功への願望が本物であれば、自分が置かれている不利な状況を嘆いたり、自分に無いものを持っている者を妬んで、エネルギーを無駄にしたりしない。そんなことをしている暇があるなら、今与えられている環境の中でいかにいい結果を出すかを考えるべきだ。

「成功願望」は重要だ。ラグビーの世界でのし上がりたい、誰よりも勝ちたい。この気持ちがプレーヤー、指導者としてキャリアを重ねる中で、大きな支えとなった。

成功への願望が強ければ、行く先にどんな困難が待ち受けていてもハードワークを厭わず努力を続けることができる。厳しい言い方をしようだが、ちょっとした壁に躓いたくらいで努力をやめてしまう人は成功願望がたりないのではないのか。

体格の不利を覆し、強い相手を倒す。誰もやったことがないことをやり切る。私にとって、ラグビーは絶好の挑戦の場だった。

これは後年の生き方にも反映されるが、とにかく難しいことにチャレンジするのが大好きな性格だった。周りが、「これは無理だよ」と思うようなことに取り組み、成果をあげるために死力を尽くす。そしてそれに異常な興奮を覚える。

いくら私はラグビーをするには体が小さ過ぎると言われようとも、体格的な不利を背負った厳しい挑戦に、やり甲斐を感じていた。ヘッドコーチを生業にすると決めてからも、この哲学は生きている。

### 引用文献

エディー・ジョーンズ『プレッシャーの力』（ワニブックス、2020）

# ●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

## 【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章を読んで、次の二つの問題に答えなさい。

設問1 「心や意志の強さ」とはどのようなものであるかについて200字以内で述べなさい。

設問2 「心や意志の強さ」は獲得可能なものだと思いますか。獲得可能であると考えられる場合、理由とあなたの考える具体的方法について、反対に、獲得不可能であると考えられる場合、具体例を挙げながらそのように考える理由について400字以内で述べなさい。

私たちは仕事や日常生活の様々な場面で、よく「心の強さ」や「意志の強さ」を話題にする。その一方で、心や意志の「弱さ」は軽蔑され、おとしめられがちだ。では、「心の強さ」とは、何だろうか。私たちはその本質をどう理解しているのだろうか。

「心が折れる」という表現がある。それほど、古い言葉ではないが、ほぼ日常語として定着したためか、最近の辞書には掲載されるようになった。二〇〇六年発行の『大辞林』（三省堂）には以下のようにある。「苦難や逆境などで、その人を支えていたよりどころがあつたという間になくなってしまふ」と。この言葉のルーツを探った新聞記事によれば、「一九九〇年代から使われはじめ、二〇一〇年ごろに一気に普及した」のだという（二〇一三年七月十七日付『日本経済新聞』Web版「『心が折れる』、起源は女子プロレスの伝説の試合」）。ルーツも特定されていて、女子プロレスラー・かんどりしのぶ神取忍よしの言葉だった由。

格闘愛好家のあいだでは一種の伝説となったジャッキー佐藤（元ビューティ・ペア）との試合について、ノンフィクション作家の井田真木子氏が神取に取材した際、彼女は繰り返しこの表現を多用した。「『あの試合のとき、考えていたことは勝つことじゃないもん。相手の心を折ることだったもん。骨でも、肉でもない、心を折ることを考えてた』。以下、『苦痛と、見る自由を奪われること、息ができない恐怖と、この三つがそろって、初めて、心が折れるのよ』など」のように（『プロレス少女伝説』かのう書房）。この記事では最近の神取氏の発言として、「骨を折る」から連想した表現だったことも明かされている。

この発言はその後、作家の夢枕獏氏による前掲の文庫版（文春文庫）の解説や、板垣恵介氏の格闘技漫画『グラップラー<sup>バキ</sup>刃牙』（秋田書房）などで繰り返し引用され、スポーツ界を中心に広がっていく。

この表現で面白いのは、まさに骨そのものを想定させるような「折れる」という表現である。もし心が、ふわふわと不定形なものだったなら、「折れる」とはいえまい。つまり、この表現の流行は、私たちが心というものを、まるで触ったりつかんだりできる物質のように認識しがちであることを意味している。そうだとすれば、私たちは「心の弱さ」について考える際に、漠然と「折られるような性質」、すなわち、「固さ」や「もろさ」をも前提としているのではないだろうか。もし「強い心」が、たんに「頑固さ」や「かたくなさ」だけを意味するのなら、この表現はこれほど流行らなかつただろう。

なぜなら、「折れやすい心」の性質として、間違いなく「頑固さ」や「かたくなさ」が想定されているはずだからだ。「折れる」という表現を受け入れたとき、私たちはごく自然に、たんなる「頑固さ」は「心の強さ」とは、別であるという認識をも受け入れたのである。

これに関して、宇宙飛行士の選抜試験ほどメンタルの強さを徹底して問われ続ける採用試験はほかにはない。宇宙飛行士の選抜試験でもっとも重要なのは、「情けの力」、すなわち、情緒性なのだという。たんに、情緒性といってもわかりにくいかもしれないが、具体的にはたとえば「情緒共感性」や「情緒的余裕」などが重要、ということだ。

宇宙空間では何が起るかわからない。まったく想定外の出来事に対応するには、知識や論理の能力だけでは不十分だ。むしろ、知識や論理で立ち行かない事態をどう冷静に乗り切れるかが問われるわけで、そこで情緒性が重要になってくるのだという。

面白いのは例示されている質問で、「桃太郎と浦島太郎、どっちが好き？」と尋ねるのだという（これは必ずしも試験の設問というわけではない）。結果として、選抜されたメンバーは全員「浦島太郎」を選んでいったというのだ。

「桃太郎」というのは、—「桃から生まれた」とか「鬼ヶ島」といった設定を除けば—非常に合理的な話なのだという。鬼と戦う動機、サルやキジとの交流、鬼退治の結末に至るまで、きわめてロジカルに筋が通っている。しかし、「浦島太郎」はそうではない。亀を助けるきっかけから、玉手箱を開けて老人になってしまう結末まで、ことごとく合理性のない、つまり情緒的な話なのである。

（人間にとって健康とは何か、斎藤環、PHP 研究所、2016年、pp.16～20より一部改変）

# ●スポーツ特待生入試

## 【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章を読んで、次の二つの設問に答えなさい。

スポーツは自己実現や健康な生活を送る上で、大きな魅力のある活動である。しかしながら、競技生活を送る過程で、アスリートは様々な困難に直面することになる。その中で、燃え尽きることなく競技に打ち込み続けるために重要な役割を果たす個人特性として、グリット（Grit）への注目が高まっている。グリットとは、「やり抜く力」とも呼ばれ、「長期的な目標達成のための忍耐力および情熱」と定義される。これは、ひとつのことを単純にやり続けるということばかりではなく、失敗や逆境、伸び悩みといった苦しい状況に置かれても、やり続けられる、やり抜けるということの意味合いとして含んでいる。また、グリットは「根気強い努力」と「関心の一貫性」という2つの要素から構成される。このことから、例えば、根気強い努力ができるとしても、関心が様々なことに拡散している場合、必ずしもグリットが高いとは言えないのである。

高いグリットを有するアスリートは、長い時間をかけて競技や競技に関連した活動に取り組めることがわかっている。また、日本人アスリートを対象とした研究では、長い競技継続年数と高いグリットが関連していることも明らかとなっている。このような十分な競技時間や長い競技継続年数は、高い目標の達成を通じた自己実現を果たしていくための重要な条件になるだろう。ところで、外的要因によって左右されにくい、自分のペースで行える競技に取り組むアスリートにおいては、「関心の一貫性」が高いほど競技レベルが高いが、環境の変化に左右されやすい競技に取り組むアスリートの場合、反対の関係性があることも報告されている。

一方で、グリットの高さゆえに、練習やトレーニングによって自身の身体を酷使し、結果としてパフォーマンスの低下や怪我などの身体的な問題を抱えることになる場合も指摘されている。このような問題は、長時間練習による身体面や健康面への弊害が問題視されていることとも関連しているだろう。

### 参考文献

雨宮 怜・吉田昌宏・坂入洋右 (2021) スポーツ競技者の Grit とバーンアウトの直線および曲線的関係. *感情心理学研究*, 28(2), 29-37.

Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M. D., & Kelly, D. R. (2007). Grit: perseverance and passion for long-term goals. *Journal of personality and social psychology*, 92(6), 1087.

Ueno, Y., Suyama, S., & Oshio, A. (2018) Relation between grit, competitive levels, and athletic events in Japanese athletes. *Journal of Physical Education and Sport*, 18(4), 2253-2256.

### 設問 1

「やり抜く力」が高いことの良い面と悪い面はそれぞれどのようなものであるか。本文を踏まえて述べよ（140字以内）。

### 設問 2

本文の内容を踏まえ、自身の「やり抜く力」を自己分析せよ。そして、自己分析の結果を踏まえて、この力を効果的に高めていくために必要であると思われることを具体的かつ論理的に述べよ（500字以内）。

# ●編入学試験

## 【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章は、ラグビー元日本代表、そして現イングランド代表ヘッドコーチのエディー・ジョーンズ氏の著書「プレッシャーの力」の一節です。この文章を読んで次の設問に回答して下さい。

### 設問

あなたが現在抱いている「成功願望」について、次の条件を踏まえて800字以内で述べて下さい。なお、ここでの成功願望とは、将来の夢や理想など、長期に渡って達成したい目標のことをいいます。

条件①：あなたの「成功願望」は？

条件②：「成功願望」を達成するために、あなたがやらなければならないこと

条件③：自分の性格における長所から「成功願望」を達成できるという確信度

条件④：自分の性格における短所から「成功願望」の達成を阻害する要因の改善方法

条件⑤：「成功願望」への挑戦が、あなた自身に与える影響

※条件の番号は論述展開の順番を表しているわけではありません。書きやすい順番で構いません。

選手として、私は体が小さいというハンデ、プレッシャーを背負っていた。特にラグビーでは、フッカーというスクラムの最前列で並ぶ3人の中心のポジションをつとめ、パワーが必要だった。実際にスクラムを押しするのは両脇のプロップと呼ばれるポジションの選手たちで自分はいくまで舵取り役だが、相手フォワードの大男と直接体をぶつける。

身体が大きいに越したことはない。体の小さい私は激しい衝撃を受けることになる。

そしてフォワードの選手たちはスクラムだけが仕事ではない。スクラムからボールが出た後も、フィールドプレーとなり、密集の最前線で体を張る必要がある。

せめて足が速ければよかったのだが、そういうわけでもない。はっきり言って私は、身体的にラグビーにはあまり向いていなかった。

成功への願望が本物であれば、自分が置かれている不利な状況を嘆いたり、自分に無いものを持っている者を妬んで、エネルギーを無駄にしたりしない。そんなことをしている暇があるなら、今与えられている環境の中でいかにいい結果を出すかを考えるべきだ。

「成功願望」は重要だ。ラグビーの世界でのし上がりたい、誰よりも勝ちたい。この気持ちがプレーヤー、指導者としてキャリアを重ねる中で、大きな支えとなった。

成功への願望が強ければ、行く先にどんな困難が待ち受けていてもハードワークを厭わず努力を続けることができる。厳しい言い方をしようだが、ちょっとした壁に躓いたくらいで努力をやめてしまう人は成功願望がたりないのではないか。

体格の不利を覆し、強い相手を倒す。誰もやったことがないことをやり切る。私にとって、ラグビーは絶好の挑戦の場だった。

これは後年の生き方にも反映されるが、とにかく難しいことにチャレンジするのが大好きな性格だった。周りが、「これは無理だよ」と思うようなことに取り組み、成果をあげるために死力を尽くす。そしてそれに異常な興奮を覚える。

いくら私はラグビーをするには体が小さ過ぎると言われようとも、体格的な不利を背負った厳しい挑戦に、やり甲斐を感じていた。ヘッドコーチを生業にすると決めてからも、この哲学は生きている。

### 引用文献

エディー・ジョーンズ『プレッシャーの力』（ワニブックス、2020）



# ●一般選抜 D 日程入試

【総合型問題（学部学科別）】（試験時間：60分）

健康・スポーツ心理学科の部活動所属の3年生と2年生の男子学生を対象に体力測定を行った。いくつかの測定種目を総合的に100点満点に換算した結果、テニス部の3年生の平均は75.0点、2年生の平均は60.0点、eスポーツ研究会の3年生の平均は72.0点、2年生の平均は55.0点であった。

テニス部は3年生8名、2年生15名、合計23名。eスポーツ研究会は3年生27名、2年生10名、合計37名。全体では60名であった。

テニス部、eスポーツ研究会合わせて、2年生、3年生の平均を求めると、2年生は58.0点、3年生は72.7点であった。2年生より3年生の方が体力測定の結果は高いように思われる。60人全体の平均点は66.6点であった。

設問(1)

これらの結果を表にまとめなさい。表にはタイトルをつけること。定規等を使わずに手書きで書くこと。他に必要な結果は自分で計算して記入すること。その際計算の過程もそのまま記載しておくこと。

設問(2)

体力測定の結果について2年と3年合わせて全体としてみたときに、テニス部とeスポーツ研究会のいずれが優れていると言えるか。根拠を示して考察しなさい。

設問(3)

以上のことを踏まえて、主張の根拠としてのデータの重要性和そのための学習の必要性について、あなたの考えを論じなさい。

# ●出題意図・解答例

## 総合型選抜 9月入試【出題意図】

---

わが国において日常生活に密着した公共入浴施設を取り巻く問題について、賛否いずれの意見を持つかを問わず、問題を客観的に受け止め、多様な立場や視点があることを理解し、意見が異なる立場にも配慮しながら、自身の主張を論理的かつ具体的に述べることができるかどうかを問う課題である。公共入浴施設における入れ墨の拒否という問題には、入れ墨の有無という「外見的特徴」のみをもって、施設利用を拒否してしまう「外見による取り扱いの差」に潜む問題点が指摘されている。また、日本と海外の国々では入れ墨（タトゥー）の捉え方は異なり、海外では宗教的な理由や文化的な背景から入れ墨が一般的な場合もあり得る。これらのような広い観点に対する想像力を働かせながら、自らの立場を明確にできることが望ましい（設問1）。

また、わが国では入れ墨にネガティブなイメージが付きまとうことは事実であり、施設経営上は、入れ墨に拒否感を持つ他の利用客の意向を考慮せざるを得ない面もある。このような現実的課題にも配慮しながら、まずどのような点から対処を検討すべきかについて、何らかの提案を試みることができる思考力や想像力について評価する（設問2）。

## 総合型選抜 10月入試【出題意図】

---

科学的根拠に基づいた幸せになる方法について、幸せの決定要因（遺伝50%、状況や環境10%、意図的な行動40%）と12の行動習慣に基づき、出題文を正しく理解して、論理的に自分の意見を述べられるかどうかを問う。設問1では昨今の経済格差に起因する教育格差や健康格差、「親ガチャ」も含めて、自分の考えを具体的かつ論理的に述べてあるかどうかを評価する。設問2では自分の行動を客観的に分析し、実現可能性の高い行動変容の方法と理由を具体的かつ論理的に述べられるかどうかを評価する。幸せの決定要因の50%は遺伝であるものの、自分でコントロールできる40%によって私たちはもっと幸せになれることを理解し、希望を見出してほしいものである。

## 総合型選抜 12月入試【出題意図】

---

高等学校で身に付けた基本的な学力をベースに自分なりの思考、判断、表現ができ、かつ自身の将来に向けて、主体性、多様性の発揮が期待できる力を判断するために、設問で問われていることを的確に理解すること、理解した内容を自分なりの考えに基づきわかりやすく表現できているかどうかを評価する。

本問においては、著名人の人生観（人生哲学）に関する設問文を読んで、問われていることを正確に理解し、その問いに対する考えを主体的に（自身の4年間の学びを想像しながら）考え、論理的に表現できるかどうかを評価する。

目的を持って本学科受験に臨んでいる受験生にとっては、論述し易い内容である。

## 学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図】

---

高等学校で身に付けた基本的な学力をベースに自分なりの思考、判断、表現ができ、かつ将来の自他の健康支援に向けて、主体性や柔軟性（意見の違いや立場の違いを理解する力）の発揮が期待できる力を判断するために、設問で問われていることを的確に理解すること、理解した内容を自分なりの考えに基づきわかりやすく表現できているかどうかを評価する。

本問においては、心の健康に関する設問文を読んで、問われていることを正確に理解し、その問いに対する考えを論理的に表現できるかどうかについての解答を求め、それについて評価される。

## スポーツ特待生入試【出題意図】

---

スポーツ特待生として入学した場合には、競技と学業の両面について、やり抜くことが期待されることとなる。この「やり抜く」というテーマについて、スポーツ現場やスポーツ心理学の分野で関心が高まっているグリット（Grit）に関連する文章を読解し、考えを述べる問題である。解答にあたっては、「やり抜く力」を自己評価し、それを高める方法を考案させることにより、大学生活に向けたイメージを明確に描けているかどうかを評価することを意図している。

### 【設問1】

課題文を読解する能力、ならびに指示された内容を的確に要約し記述する能力を評価する。

### 【設問2】

前問で示した理解を踏まえた上で自身の「やり抜く力」を自己分析し、これを効果的に高める方法を自身の発想に基づき具体的かつ論理的に述べられるかどうかを評価する。さらに、この力は単純に高ければ高いほど良いものではないという点を問題文から読み取り、メリットとデメリットの両方を踏まえて述べることができた場合にも高い評価を与える。

## 編入学試験【出題意図】

---

これまでに身に付けた基本的な学力をベースに自分なりの思考、判断、表現ができ、かつ自身の将来に向けて、主体性、多様性の発揮が期待できる力を判断するために、設問で問われていることを的確に理解すること、理解した内容を自分なりの考えに基づきわかりやすく表現できているかどうかを評価する。

本問においては、著名人の人生観（人生哲学）に関する設問文を読んで、問われていることを正確に理解し、その問いに対する考えを主体的に（自身の編入学後の学びを想像しながら）考え、論理的に表現できるかどうかを評価する。

目的を持って本学科編入学試験に臨んでいる受験生にとっては、論述し易い内容である。

## 一般選抜 D 日程入試【出題意図・解答例】

設問(1)において、高等学校までに修得した基礎的な学力をベースに、合理的な手順により、正しい答えに導くことができているかについて評価する。

設問(2)において、高等学校までに修得した基礎的な学力をベースに、正しい判断ができるか評価する。

設問(3)において、主体的に考え、論理的に表現できているかについて評価する。

### 設問(1)《解答例》

表の作成

表 テニス部と e-スポーツ研究会の体力測定結果

学年 部	2 年生		3 年生		全体	
	平均点 (点)	人数 (人)	平均点 (点)	人数 (人)	平均点 (点)	人数 (人)
テニス部	60.0	15	75.0	8	65.2	23
e-スポーツ研究会	55.0	10	72.0	27	67.4	37
全体	58.0	25	72.7	35	66.6	60

グラフではなく、表が書かれているか、表のタイトルが書かれているか、人数が書かれているか、全体（合計）の欄が書かれているか、必要な数字を正しく求めて記載しているか、といった観点で採点。

行と列の入れ替え、縦罫の有無など、表としての体裁や有効桁数、単位の有無は採点しない

### 設問(2) 全体としての判断（A～Eの5段階で採点）

A：2年、3年の全体の平均点を正しく求めて判断をしている

例：「テニス部の全体の平均点は65.2点、e-スポーツ研究会全体の平均点は67.4点で、ほぼ同じであるがe-スポーツ研究会の方が若干高い平均点が得られた」

結論は「e-スポーツ研究会が高い」、「両者はほぼ同じである」はいずれも可

B：2年、3年の全体の平均点を求めているが、求め方が間違えているために、判断を誤っている。

例：テニス部  $(60+75)/2 = 67.5$  e-スポーツ研究会  $(55+72)/2 = 63.5$  など

C：計算せず、2年生も3年生もテニス部の方が高いことを根拠に判断をしている

D：判断はしているが、根拠が示されていない

E：無回答

### 設問(3)

- (1) (妥当性) 主張の根拠としてのデータの重要性について、根拠（本題の例や先入観による歪みなど）を挙げて説明している
- (2) (論理性) (1)について論理的に説明できている。
- (3) (意欲) データの処理や読み方、その活用のためのリテラシー、学習の重要性について、意欲を持って論じられている
- (4) (具体性) (3)について具体性を持って説明できている。
- (5) (文章表現、誤字等) 誤字脱字等誤り減点
- (6) (特別加点) シンプソンのパラドックス、統計的用語（検定、t-検定、帰無仮説）などが書かれている場合は、加点